

ものいわぬ動物達のために、眼の病気に早く気付いてあげましょう。

鳥取大学農学部附属動物医療センター獣医神経病腫瘍学分野

准教授 伊藤典彦

ワンちゃんの病気では、もっと早く気付いてあげたら治すことができたのに、と感じることがたくさんあります。ものいわぬ動物たちは、体のちょっとした異常を訴えることができません。

「眼が白い。」と気付いた時には、ワンちゃんの眼をよく見てあげましょう。眼には白目と黒目の部分があります。白目の部分は結膜です。黒目の部分は角膜です。健康な角膜は透明なので黒くはありません。透明な角膜を透かして見える、茶色い虹彩および暗い瞳孔が黒く見えます。

「眼が白い。」という訴えは、いつもは黒く見えていた角膜が白く見える時に生じます。白くなった、すなわち混濁した部位は、角膜あるいは透かして見えていた角膜の後方である可能性があります。その場所は、前の方から角膜、前房、水晶体、硝子体腔です。混濁部位によって、大まかに病気の名前も予測がつかます。混濁部位の見分け方は簡単です。虹彩・瞳孔が見えるか見えないかがひとつの分かれ道です。

虹彩・瞳孔が見えない場合、混濁部位は虹彩より前方、角膜か前房です。角膜の混濁部位で、さらに病気の名前を絞ることができます。角膜の全面、全層が混濁し表面に傷がみられない場合、緑内障あるいは角膜内皮障害が疑われます。「眼が白い。」は、緑内障のひとつの症状、眼圧上昇のサインでもあります。角膜の混濁部位が部分的な場合、角膜炎が疑われます。緑内障と角膜炎を見分ける際には、眼ヤニの性状が参考になります。緑内障では、量はそれほど多くなく、透明から白色、糸を引く様な眼ヤニが出ます。角膜炎では、量は多く、黄色から白色、膿の様な眼ヤニが出ます。混濁部位が角膜の中央、たくさんの黄色い眼ヤニが出ている場合、細菌性角膜炎が強く疑われます。そのままです

と、一晩で角膜に穴が空く場合があります。

虹彩・瞳孔が見える場合、混濁部位は虹彩の後方、水晶体か硝子体腔です。水晶体の混濁では、白内障が疑われます。硝子体腔の混濁では、網膜剥離あるいは強いぶどう膜炎が疑われます。

白内障は治せる病気です。混濁した水晶体の中身だけを超音波で砕き吸い出します。残った水晶体の袋に人工水晶体を入れます。切る長さは、最大で **6mm** の小切開手術です。元通りのみる力を取り戻すことができます。以前の様に、眼と眼をあわせて交流できる様になります。

「眼が白い。」ことに気付いたら、すぐに獣医さんに連れて行ってあげましょう。早く気付いてあげたら、治すことができる病気がたくさんあります。